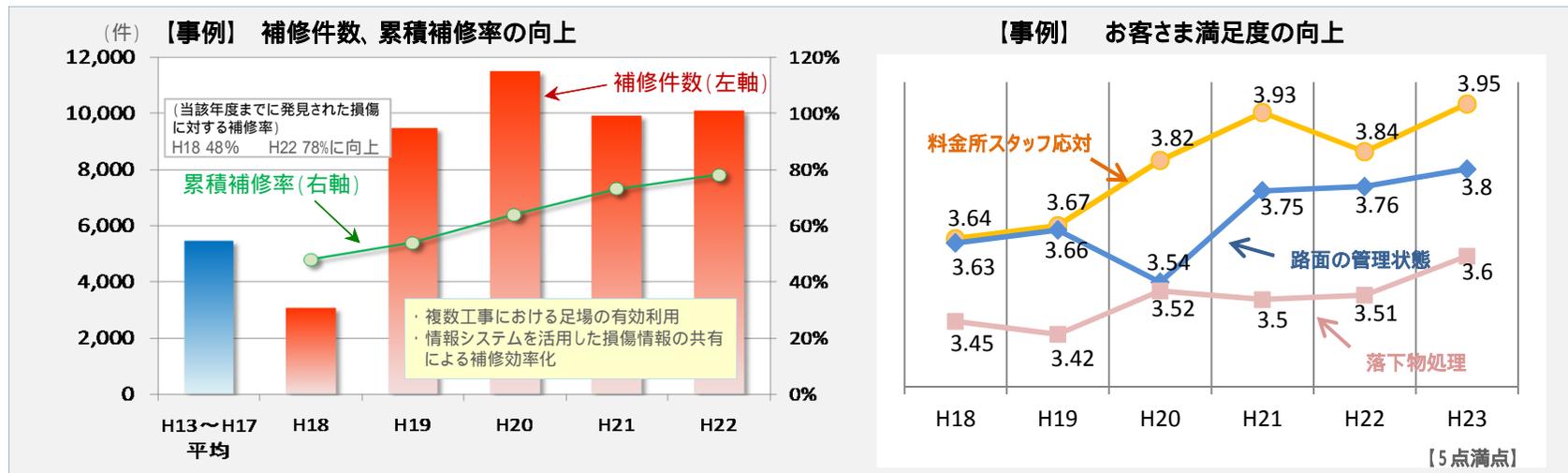


# 【資料1】グループ経営の効果の具体的事例

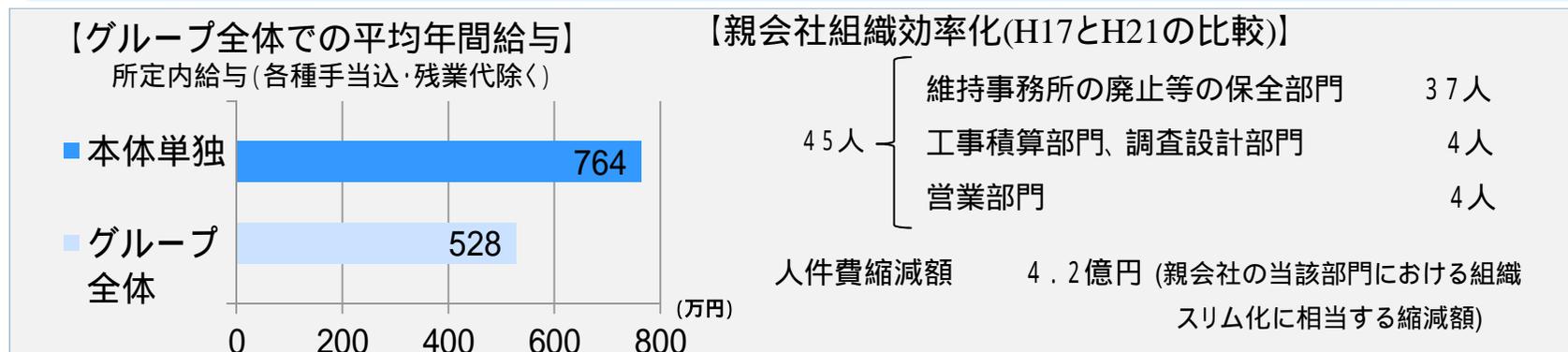
## 1. 品質(管理水準)の確保・向上

親会社との明確な資本関係の構築、理念・ビジョン等の共有、連結決算を通じた経営の透明化などによりグループガバナンスを構築し、品質(管理水準)の確保・向上の徹底が可能となる。



## 2. 業務の効率化

業務内容・規模に応じた最適な組織体制を子会社において構築することにより業務の効率化と人件費縮減を実現できるとともに、機動的な人材活用が可能となる。また、親会社の機能の一部移管により親会社組織のスリム化を実現できる。

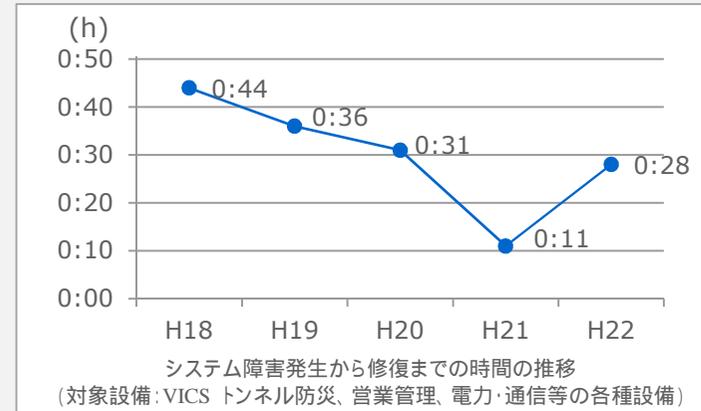
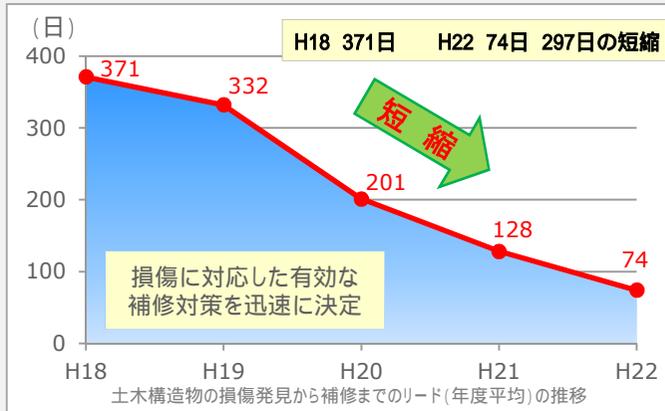


# 【資料1】グループ経営の効果の具体的事例

## 3. 技術・ノウハウの集約

安定的・継続的な業務の実施を通じて構造物や業務の特性に習熟し、技術力・ノウハウの集約・蓄積が図られることにより、業務の効率化や品質（管理水準）の確保・向上に寄与する。

【事例】構造物等の損傷・障害の発見から補修・修復までのリードタイムの短縮



## 4. 緊急性・機動性

特異な事故・気象事象等により、「安全・安心・快適な道路サービス」の維持のためには通常の子会社の役割・機能分担では迅速な対応が困難な場合であっても、役割分担の柔軟な運用により、機動的に管理4業務を実施できる。

【事例】雪氷対策時のツール会社の対応

雪氷対策時に、料金所スタッフが料金所部において、凍結防止剤の散布や機器類の除雪作業を実施。



【事例】交通管理隊のポットホール補修による補修の効率化及び規制時間の短縮

従前の阪神高速技術(株)による緊急対応(平均処理時間: 3.0時間)から、阪神高速パトロール(株)による緊急対応(平均処理時間: 0.5時間)に切り替え、高速道路の安全性向上、規制時間の短縮による渋滞損失の縮減に寄与。

